

(議案第1号関係)

令和3年度

事業報告書

令和 3年 4月 1日から

令和 4年 3月31日まで

令和3年度 事業総括

令和3年度の本会事業ですが、牛や馬などの予防注射事業(発生予防事業)は、計画頭数 988,200 頭に対し、実績頭数は 938,834 頭で計画比 95.0%と、ほぼ計画どおりの実績を確保することができました。

国の補助事業につきましては、ヨーネ病の自主的な検査やとう汰、牛ウイルス性下痢(BVD)の持続感染牛の自主的なとう汰などへの助成事業である「家畜生産農場衛生対策事業」につきましては、関係機関のご協力により、円滑な助成を行うことができました。

また、死亡牛のBSE検査、処理費などへの助成事業である「死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業」についても、関係者の皆様のご尽力により、大きな混乱もなく事業を推進することができました。

また、口蹄疫、豚熱等の海外悪性伝染病の万が一の発生に備える「家畜防疫互助基金支援事業」につきましては、令和2年度末で3年間の事業期間が終了し、令和3年度から新たな事業期間となります。道内では、令和3年度末現在、3,015 戸の牛飼養農場、59 戸の豚飼養農場が加入しています。

その他、公益社団法人中央畜産会等の助成事業なども含めまして、令和3年度の協会事業は、新型コロナウイルス感染症渦のなか、各地域の自衛防疫組合や関係機関・団体の皆様のご理解とご協力のもとに円滑に推進できましたことをご報告いたします。

第 1 一 般 会 務

1. 会 員

(1) 正 会 員 27 団 体

ア. 寄 託 会 員 19 団 体

北海道。ホクレン農業協同組合連合会。北海道農業共済組合連合会。一般社団法人ジェネテイクス北海道。十勝管内家畜自衛防疫推進協議会。空知地区家畜自衛防疫推進協議会。上川地区家畜自衛防疫連絡協議会。石狩地区家畜自衛防疫推進協議会。釧路地区家畜自衛防疫連絡協議会。日高家畜衛生防疫推進協議会。後志家畜自衛防疫推進協議会。留萌地区家畜畜産物自衛防疫推進協議会。根室家畜伝染病自衛防疫推進協議会。胆振家畜自衛防疫推進協議会。オホーツク家畜自衛防疫推進協議会。公益社団法人北海道獣医師会。檜山地区家畜自衛防疫推進協議会。渡島地区家畜伝染病自衛防疫推進協議会。宗谷地区家畜自衛防疫推進協議会。

イ. 会 費 会 員 8 団 体

北海道農業協同組合中央会。一般社団法人北海道酪農畜産協会。北海道ホルスタイン農業協同組合。北海道町村会。北海道乳質改善協議会。一般社団法人北海道酪農協会。北海道養鶏会議。一般社団法人ばんえい競馬馬主協会。

(2) 賛 助 会 員 9 団 体

北海道信用農業協同組合連合会。雪印メグミルク株式会社。日高軽種馬農業協同組合。株式会社明治。よつ葉乳業株式会社。北海道動物器薬協会。北海道乳業株式会社。胆振軽種馬農業協同組合。一般社団法人北海道養豚生産者協会。

2. 役 員 の 異 動

第49回通常総会及び第2回理事会で丹羽副会長、井澤理事の辞任に伴う役員の補欠選任が行われ、次の方々が就任された。(敬称略)

役 職 名	氏 名	所 属 団 体	備 考
副会長	西 野 一	ホクレン農業協同組合連合会	就任
理事	熊 谷 留 夫	上川地区家畜自衛防疫連絡協議会	就任

3. 総会の開催

第49回通常総会 令和3年6月18日 書面開催
議案及び決議事項

- (1) 令和2年度事業報告及び決算の承認について
- (2) 令和3年度会費の賦課額と徴収方法の決定について
- (3) 令和3年度役員報酬総額の承認について
- (4) 令和3年度借入金の最高限度額の承認について
- (5) 役員の新補欠選任について
- (6) 令和3年度事業計画、収支予算の報告について

4. 理事会の開催

第1回理事会 令和3年5月26日 書面開催

- (1) 第49回通常総会の開催について
- (2) 第49回通常総会提案事項について

第2回理事会 令和3年6月22日 オンライン開催

- (1) 副会長の選定について
- (2) 令和3年度役員報酬の執行について
- (3) 令和2年度事業報告書提出について
- (4) 業務執行状況の報告について

第3回理事会 令和3年12月9日 北海道獣医師会館

- (1) 報告事項
 - ア 上半期財務状況について
 - イ 上半期各事業の進捗状況について
 - ウ 寄託金の運用状況について
 - エ 職務執行状況について

第4回理事会 令和4年3月17日 書面開催

- (1) 令和4年度事業計画案について
- (2) 令和4年度発生予防事業対価案について
- (3) 令和4年度収支予算案について
- (4) 第50回通常総会等の開催案について

5. 寄 託 金

金 66,800,000 円 (334口) 一口 200,000 円

寄 託 会 員 名	口 数	寄 託 額
北 海 道	125 口	25,000 千円
ホクレン農業協同組合連合会	150	30,000
北海道農業共済組合連合会	25	5,000
一般社団法人ジェネティクス北海道	10	2,000
十勝管内家畜自衛防疫推進協議会	1	200
空知地区家畜自衛防疫推進協議会	1	200
上川地区家畜自衛防疫連絡協議会	1	200
石狩地区家畜自衛防疫推進協議会	1	200
釧路地区家畜自衛防疫連絡協議会	1	200
日高家畜衛生防疫推進協議会	1	200
後志家畜自衛防疫推進協議会	1	200
留萌地区家畜畜産物自衛防疫推進協議会	1	200
根室家畜伝染病自衛防疫推進協議会	1	200
胆振家畜自衛防疫推進協議会	1	200
オホーツク家畜自衛防疫推進協議会	1	200
公益社団法人北海道獣医師会	10	2,000
檜山地区家畜自衛防疫推進協議会	1	200
渡島地区家畜伝染病自衛防疫推進協議会	1	200
宗谷地区家畜自衛防疫推進協議会	1	200
計 (19団体)	334	66,800

6. 会 費

金 570,000 円

会 費 会 員	会 費 額	賛 助 会 員	会 費 額
北海道農業協同組合中央会	千円 50	北海道信用農業協同組合連合会	千円 100
一般社団法人北海道酪農畜産協会	60	雪印メグミルク株式会社	30
北海道ホルスタイン農業協同組合	50	日高軽種馬農業協同組合	50
北海道町村会	20	株式会社 明治	30
北海道乳質改善協議会	20	よつ葉乳業株式会社	30
一般社団法人北海道酪農協会	10	北海道動物器薬協会	30
北海道養鶏会議	10	北海道乳業株式会社	20
一般社団法人ばんえい競馬馬主協会	20	胆振軽種馬農業協同組合	20
		一般社団法人北海道養豚生産者協会	20
計 (8団体)	240	計 (9団体)	330

第 2 事業実施成績

1. 発生予防事業(公益目的事業、収益事業等)

次頁のとおり下記事業による予防接種を実施。

(1) 補助事業発生予防事業(農林水産省 家畜生産農場衛生対策事業:公益目的事業)

ア. アカバネ病

(2) 特定疾病発生予防事業(北海道家畜畜産物衛生指導協会事業:公益目的事業)

ア. 牛5種混合(生)(牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢粘膜病・牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス・牛アデノ7型ウイルス)

イ. 牛5種混合(不)(牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢粘膜病2価・牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス)

ウ. 牛6種混合(生)(牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢粘膜病2価・牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス・牛アデノ7型ウイルス)

エ. 牛6種混合(牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢粘膜病2価・牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス・牛アデノ7型ウイルス)

オ. 牛嫌気性菌5種と上記のアからエのいずれかとの同時接種

カ. 牛嫌気性菌5種

キ. 牛下痢5種混合(不)

ク. ニューカッスル病(生)

ケ. ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎混合

コ. 馬3種混合(日本脳炎、破傷風、馬インフルエンザ)

サ. 日本脳炎(馬)

シ. 馬インフルエンザ

ス. 破傷風(馬)

セ. 馬鼻肺炎(生)

ソ. 豚丹毒(生、不)

タ. 豚流行性下痢(PED)

チ. 豚伝染性胃腸炎(TGE)・豚流行性下痢混合

(3) 育成馬等予防接種推進事業(中央畜産会助成事業:収益事業等)

ア. 馬3種混合(日本脳炎、破傷風、馬インフルエンザ)

イ. 日本脳炎(馬)

ウ. 馬インフルエンザ(対象:競走馬)

(4) 馬インフルエンザ等自衛防疫推進事業(中央畜産会助成事業:収益事業等)

ア. 馬インフルエンザ(対象:農用馬、乗用馬等)

イ. 馬鼻肺炎(生)(対象:妊娠馬)

令和3年度 発生予防事業実績集計表

(単位:頭、羽)

疾 病 名	計 画 (A)	実 績 (B)	計 画 比 (B/A)
豚 丹 毒	142,800	141,376	99.0
豚伝染性胃腸炎(TGE)・ 豚流行性下痢(PED)混合	0	0	
ニューカッスル病	14,000	24,000	171.4
牛伝染性鼻気管炎	615,200	572,009	93.0
牛嫌気性菌5種	111,400	93,839	84.2
アカバネ病	5,300	4,192	79.1
牛下痢5種混合	39,100	41,362	105.8
馬3種混合	26,900	28,063	104.3
日本脳炎(馬)	4,600	4,452	96.8
馬インフルエンザ	12,700	12,497	98.4
馬鼻肺炎(生)	16,200	17,044	105.2
馬破傷風	0	0	
合 計	988,200	938,834	95.0

(地区別内訳は別紙1)

2. 令和3年度 検査推進事業（農林水産省補助事業:公益目的事業）

(1) 家畜生産農場衛生対策事業

ア. 疾病清浄化支援対策

(ア) 牛疾病防疫支援対策

○ ヨーネ病自主検査

移動牛等を対象に、自主検査(血清反応・培養検査)を関係機関の協力により実施。

・自主検査 乳用牛 1,982頭 肉用牛 22,360頭 合計 24,342頭

(内訳は表①のとおり)

○ ヨーネ病発生農場における自主とう汰

ヨーネ病発生農場飼養牛の自主的なとう汰を関係機関の協力により実施。

乳用牛 120頭 肉用牛 59頭 合計 179頭 (内訳は表①のとおり)

○ 牛伝染性リンパ腫の検査、自主とう汰

牛伝染性リンパ腫発生農場や公共牧場の検査及びハイリスク牛の自主とう汰や吸血昆虫駆除対策を関係機関の協力により実施。

・農場での検査 44農場 1,615頭

・ハイリスク牛の自主とう汰 なし

・公共牧場での検査 1牧場 157頭

・公共牧場の吸血昆虫対策 9牧場

○ 牛ウイルス性下痢(BVD)対策

BVD発生農場等の検査、持続感染牛の自主とう汰などを関係機関の協力により実施。

・農場での検査 68農場 1,433頭

・緊急予防接種 1農場 394頭

・持続感染牛の自主淘汰 37農場 84頭 (内訳は表②のとおり)

(イ) 豚疾病防疫支援対策

種豚生産農場のオーエスキー病抗体検査、証明書の発行などを関係機関の協力により実施。

・抗体検査、証明書の発行 2農場 30頭

(ウ) 地域慢性疾病清浄化支援対策

牛マイコプラズマ乳房炎の清浄化のため、関係者が一体となった取り組みなどに助成を実施。

・実施団体 JAオホーツクはまなす

・検討会の開催 4回開催

・農場の検査 104農場 バルク乳 1,757件、個乳 7,408件、同定検査 32件

・感染牛の自主とう汰 1農場 1頭

イ. 農場飼養衛生管理強化対策

農場の飼養衛生管理向上のため、農場が支払った獣医師指導経費に助成。

・指導実施農場 197農場(牛飼養農場)

ウ. 疾病発生・流行防止支援対策

・アカバネ病ワクチン接種 4,192頭 (詳細は、発生予防事業成績(別紙1)のとおり)

(表①)

ヨ－ネ病自主検査並びに自主とう汰実施頭数(令和3年度)

事業 支部	自主検査頭数								自主とう汰頭数				備考		
	血清				細菌培養				合計		戸数	乳用牛 頭数		肉用牛 頭数	頭数 合計
	乳用牛		肉用牛		乳用牛		肉用牛		戸数	頭数					
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数							
石 狩			157	310					157	310	2	6		6	
道南(渡島)	18	305	334	893					352	1,198	1	1		1	
道南(桧山)			283	564					283	564				0	
後 志			84	252					84	252				0	
空 知	1	1	268	807					269	808				0	
上 川	33	373	345	889					378	1,262	3	3	6	9	
留 萌	1	1	100	289					101	290	1		1	1	
宗 谷	4	5	99	234					103	239	5	7	5	12	
網 走	8	11	894	2,334					902	2,345	4	3	5	8	
胆 振	13	33	790	2,032					803	2,065	3		9	9	
日 高	16	171	1,072	2,624					1,088	2,795	5		15	15	
十 勝	30	260	2,104	7,144					2,134	7,404	25	65	13	78	
釧 路	25	41	400	3,327					425	3,368	10	12	3	15	
根 室	131	781	249	661					380	1,442	8	23	2	25	
合 計	280	1,982	7,179	22,360	0	0	0	0	7,459	24,342	67	120	59	179	

注 1 自主検査の戸数は延べ戸数である。

(表②)

牛ウイルス性下痢・粘膜病検査、予防接種、自主とう汰実施頭数(令和3年度)

事業 支部	検査頭数						予防接種頭数				自主とう汰頭数				備考
	血 清				合計		戸数	乳用牛 頭数	肉用牛 頭数	頭数 合計	戸数	乳用牛 頭数	肉用牛 頭数	頭数 合計	
	乳用牛		肉用牛		戸数	頭数									
	戸数	頭数	戸数	頭数											
石 狩															
道南(渡島)	1	74	1	22	2	96					2	4	1	5	
道南(桧山)															
後 志															
空 知															
上 川	11	170	3	49	14	219					1	2		2	
留 萌	9	123	1	2	10	125					5	10		10	
宗 谷											1	7		7	
網 走	31	917	11	76	42	993					8	24	2	26	
胆 振											1	3		3	
日 高							1	394		394	1	1		1	
十 勝											17	16	13	29	
釧 路											1	1		1	
根 室															
合 計	52	1,284	16	149	68	1,433	1	394		394	37	68	16	84	

(2) 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業(牛疾病検査円滑化推進対策事業)

ア. 事業実施頭数

事業対象死亡牛頭数	左のうち		備考
	BSE検査頭数	検査除外頭数	
10,245 頭	10,152頭	93頭	全頭陰性

イ. 死亡牛適正処理推進協議会の開催

開催時期	開催場所	協議内容	参加人員	備考
令和3年11月19日	札幌市	JA北海道中央会、北海道より情勢報告、当協会より事業の進捗状況説明	14名	

3. 令和3年度 中央畜産会等助成事業（収益事業等）

(1) 馬飼養衛生管理特別対策事業

ア. 馬飼養管理技術講習会、馬臨床に係る現地検討会の開催

馬関係獣医師の技術並びに馬飼養者の自衛防疫意識の向上を図るため講習会、検討会を開催。

開催時期	開催場所	講師	講習内容	参加人員
令和3年10月27日	新ひだか町	元JRA競走馬総合研究所長 松村 富夫 先生 ほか	馬鼻肺炎生ワクチンの学術的 有効性についての総括 ほか	37名
令和4年3月1日から 3月7日まで	浦河町 (WEB配信)	公益財団法人軽種馬育成調 教センター 小林 光紀 先生 ほか	BTCにおける育成馬の運動 器疾患の発生状況 ほか	228名

イ. 地域馬獣医療実態調査

調査時期	調査地域	調査対象	調査内容
令和3年9～11月	道内全域	馬飼養農家 195戸 (軽種馬を除く)	衛生管理基準の遵守状況、馬伝染性 疾病発生予防対策のアンケート調査

(2) 育成馬等予防接種推進事業

競走馬の馬3種混合（日本脳炎、破傷風、馬インフルエンザ）、日本脳炎、馬インフルエンザ予防接種に助成。

馬3種混合 25,834頭 日本脳炎 2,617頭 馬インフルエンザ 10,912頭

(3) 馬インフルエンザ等自衛防疫推進事業

ア. 馬鼻肺炎予防接種

妊娠馬の馬鼻肺炎ワクチン接種に助成。 (生) 16,204頭

イ. 馬インフルエンザ予防接種

馬インフルエンザの清浄化の確認と維持を図るため、乗用馬・農用馬等の予防接種に助成。

区分 \ 用途別	実施頭数			合計
	農用馬	乗用馬	その他関連馬	
馬インフルエンザワクチン接種	54	349	55	458

ウ. 地域馬伝染性疾病防疫推進検討会の開催

馬伝染性疾病の防疫強化を図るため、令和3年9月(書面)と令和4年2月(書面)に開催。

(4) 組織強化対策事業

ア 地域自衛防疫活動の強化並びに農場HACCP認証の普及推進(家畜防疫・衛生指導対策事業)

地域における自衛防疫活動の強化を図るため、推進会議の開催、生産者段階での防疫演習の実施、牛マイコプラズマ乳房炎の検査等の助成、牛伝染性リンパ腫発生農場の検査、自主とう汰、競馬場在きゅう馬の馬伝染性貧血の抽出検査などに助成。

農場HACCP認証を普及するため、普及推進のための検討会の開催、農場への啓発活動、農場HACCPシステムの構築指導を実施。

項目	内容
地域自衛防疫推進会議	令和3年8月及び令和4年3月に書面開催
生産段階での防疫演習	家畜保健衛生所と連携し、釧路市、網走市、伊達市、木古内町、栗山町で開催(計5回)
牛マイコプラズマ乳房炎対策	十勝管内搾乳農場(1,090農場)の採材費、検査料に助成
牛伝染性リンパ腫清浄化支援	本病発生乳用牛飼養2農場(せたな町、士別市)の採材、検査、自主とう汰、吸血昆虫対策に助成
馬伝染性貧血自衛検査	競馬場に在きゅうしている馬の馬伝染性貧血抽出検査への助成(助成頭数:60頭)
農場HACCP普及推進協議会の開催	令和3年11月に帯広市で、生産者及び関係者の参集により開催(出席者:198名)、同時にZOOMライブ配信を実施
農場HACCP地域啓発活動	令和4年1月に札幌市で、農場HACCP審査員を参集し、検討会を開催
農場HACCPシステム構築指導	乳用牛2農場(広尾町、大樹町)、肉用牛2農場(安平町、広尾町)、豚2農場(石狩市、千歳市)、採卵鶏農場(長沼町)で実施

イ 畜産経営技術指導事業(畜産関係団体調整機能強化事業)

生産者等からの家畜衛生に関する技術の相談、家畜衛生関連の情報提供依頼に応じるため、窓口を設置し、当協会の獣医師及び農場HACCP審査員資格を有する職員が相談に対応。

また、当協会ホームページに講習会内容などの家畜衛生情報を掲載。

(5) 家畜防疫互助基金支援事業

令和3年度家畜防疫互助事業生産者積立金額

(単位：戸、頭、円)

区分	家畜の種類	契約戸数	契約頭数	生産者積立金	
乳用牛・肉用牛	1 乳用牛				
	(1) 乳牛(24か月齢以上)	2,212	221,647	54,303,515	
	(2) 乳牛(24か月齢未満)	2,235	157,366	14,162,940	
	2 肉用牛				
	(1) 肉専用種繁殖雌牛(24か月齢以上)	809	35,097	8,247,795	
	(2) 肉専用種繁殖雌牛(24か月齢未満)及び肉専用種肥育牛	820	67,058	8,382,250	
	(3) 肉専用種と乳用種の交雑種肥育牛	221	103,953	9,875,535	
	(4) 乳用種肥育牛	161	117,890	10,610,100	
	計	3,015	703,011	105,582,135	
豚	企業型	(1) 繁殖用種豚(雌)	32	34,537	13,469,430
		(2) 繁殖用種豚(雄)	30	775	302,250
		(3) 肥育豚	33	353,278	38,860,580
		小計	33	388,590	52,632,260
	家族型	(1) 繁殖用種豚(雌)	25	3,237	1,213,875
		(2) 繁殖用種豚(雄)	25	182	68,250
		(3) 肥育豚	26	31,036	3,258,780
		小計	26	34,455	4,540,905
		計	59	423,045	57,173,165
	合計		3,074	1,126,056	162,755,300

4. 家畜自衛防疫の推進強化を図る事業

(1) 広報誌等の発行(自衛防疫強化総合対策事業、家畜衛生対策事業)

発行年月	発行部数	標題	発行者	配布先
令和3年5月	1,200部	競走用馬の予防注射プログラム	道衛指協	支部、各自衛防疫組合、HP掲載
令和3年6月	250部	予防注射事業の事務処理要領	道衛指協	支部、各自衛防疫組合

(2) 家畜衛生技術普及講習会(講習会事業)

ア. 家畜衛生技術普及講習会(技術者向け)

区分	開催月日	場所	講師	講習内容	参加者
上川支部	令和3年7月27日	旭川市(参集及び配信)	北海道立総合研究機構 畜産試験場 櫻井 由絵 氏 ほか	牛サルモネラ症の発生要因と対策について ほか	113名
本部	令和3年10月27日	新ひだか町	元JRA競走馬総合研究所 松村 富夫 氏 ほか	馬鼻肺炎ワクチンセミナー	37名
本部	令和3年11月22～27日	札幌市 (WEB開催)	北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所 喜田 宏 氏 ほか	鳥インフルエンザにはじまる人獣共通感染症対策を振り返る	41名
本部	令和4年2月7～13日	札幌市 (WEB開催)	農研機構動物衛生研究部門 山本 健久 氏 ほか	国内での豚熱発生状況と疫学 ほか	52名
本部	令和4年2月7～13日	札幌市 (WEB開催)	群馬県農政部畜産課 小淵 裕子 氏 ほか	飼養衛生管理の重要なポイントについて～発生県の取り組み ほか	103名
本部	令和4年3月14日	札幌市 (WEB開催)	ホクレン訓子府実証農場 畜産技術課 砂留 光利 氏 ほか	発泡消毒を含めた農場での消毒実践例 ほか	331名
合計	6回				677名

イ. 家畜衛生技術普及講習会(農家向け)

区分	牛		豚		鶏		馬		放牧衛生		衛生全般		計	
	回	人員	回	人員	回	人員	回	人員	回	人員	回	人員	回	人員
宗谷	10	102											10	102
胆振	1	13			1	42							2	55
十勝	2	14											2	14
合計	14	173	0	0	1	42	0	0	0	0	0	0	15	215

5. 家畜衛生関係団体への協力

鶏病研究会北海道支部、北海道オーエスキー病侵入防止対策協議会、北海道牛削蹄師会、北海道海外悪性伝染病防疫対策協議会(経理担当)の事業推進に協力。